

救護施設先駆的実践シェア事業

地域生活サポート事業

～救護施設の利用を通じた地域での生活に向けて～



赤い羽根
福祉基金

宮城県 救護施設 太白荘
生活支援ワーカー 高橋健太

事業概要

【事業に取り組む背景】

- ・ 地域移行後の利用者に対するフォローアップ
- ・ 福祉事務所や関係機関との支援体制の構築

【目標】

- ① 地域生活をしている生活保護世帯および生活困窮世帯のニーズ把握，必要な支援の提供
- ② 福祉事務所等との協働による支援体制の構築，連携の強化
- ③ 本人のニーズに応じた当施設の一時利用の促進と収入増加

事業所紹介

【定員】

100名（男性50名，女性50名）

【一時入所】

4名（男性2名，女性2名）

【施設の特徴】

- ・ 仙台市内から車で20分ほどの場所。
- ・ 周囲は住宅や教育施設に囲まれた静かな環境。
- ・ 3班活動や各種クラブ活動，季節ごとの行事。
- ・ 居宅生活訓練事業による地域移行への取り組み。



実施状況報告①

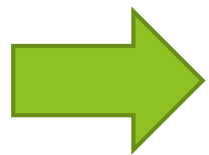
実施月	内容
7月	Aさん退所(60代女性) ※入所経緯はアルコール依存症による在宅生活困難 福祉事務所・地域包括支援センター・太白荘による支援会議
8月	Aさんの状況確認および関係機関と情報共有
9月	Aさんの状況確認および関係機関と情報共有 Aさんの退所後フォローに向けた所内会議①
10月	Aさんの状況確認（「単身生活の寂しさ」が聞かれる） Aさんの退所後フォローに向けた所内会議② ⇒「友達づくり」としてのイベント開催検討 ⇒福祉事務所へ上記について報告
11月	イベント開催に向けた資料作成および福祉事務所への電話相談 外部講師への趣旨説明，実施日程調整 Aさんおよび地域移行希望者へ参加の声掛け
12月	イベント開催に向けた福祉事務所との打ち合わせ 外部講師との打ち合わせ，イベント実施 ※Aさん不参加(悪天候のため)

実施状況報告②

実施月	内容
1月	<p>次回イベント実施に向けた打ち合わせ ⇒福祉事務所より，民生委員との協働の提案あり ⇒民生委員へ連絡し，趣旨説明。以下のとおり返答あり。</p> <ul style="list-style-type: none">① イベント開催に向けた趣旨説明よりも，太白荘を認知してもらうための「事業所説明」をすべきとの助言を受ける。② 民生委員児童委員協議会(以下，民児協)での事業所説明機会の確保に向けた取り組みを検討することとなる。
2月	<p>福祉事務所へ民児協での事業所説明打診。 ⇒民児協会長の集会で太白荘が事業所説明をしたい旨，周知。 ⇒太白荘所在地を管轄する民児協会長より，問い合わせがある。</p>
3月	<ul style="list-style-type: none">① 太白荘所在地を管轄する民児協の集会にて事業所説明。② 同席していた地域包括支援センター職員へ，将来的なイベント開催も視野に連携していきたいことを説明。③ 地域包括支援センター職員へ趣旨説明。 4月以降地域包括支援センター職員の職種別会議にて事業所説明日程を調整中。

事業実施に向けた課題

- ①救護施設単体で取り組める内容には限界がある。
関係機関や地域住民との協働が必須。
- ②長年施設運営をしていることで、存在は知ってもらえていても、どんな施設かの認識には至っていない。
理解してもらおうための取り組みが必要。
- ③理解してもらおうだけでなく、私たちも地域のことを知る必要がある。情報収集の方法を確立させる。



顔の見える関係性を構築することが必要不可欠！

ご清聴ありがとうございました



赤い羽根
福祉基金



※写真の掲載にあたり、ご本人の同意を得ています。